

様式 2

県立高等学校重点校制度に係る成果報告書

学校名 鳥取県立智頭農林高等学校

重点項目	地域連携重点校	提出日	令和 5 年 4 月 19 日
------	---------	-----	-----------------

1 学校目標	
(1) 専門教育の充実	各科の授業実践及び資格取得の取組をとおして、学びの質の向上を図る
(2) 学力向上	基礎学力の定着と授業力の向上
(3) キャリア教育	進路指導の充実と職業観・勤労観の育成
(4) こころの教育	規範意識の醸成、基本的な生活習慣の確立、家庭との連携 自己理解・他者理解に基づいた人間関係づくりの支援、自己肯定感の育成、健やかな体づくり 教育相談、特別支援教育及び人権教育のより一層の充実
(5) 地域連携の充実	地域の教育資源を活かし、本校の教育資源を地域に活かす、顔の見える地域連携、先輩から後輩へ、広報の拡大と充実
(6) 学校業務の改善	学校業務改善の取組みを進め、一人一人を大切に教育の充実を図る
2 重点項目に係る目標・成果	
目標	成果
(1) 地域連携を通して、地域の活性化に寄与するとともに、生徒の人間的な発達を促し、地域に期待される学校をめざす。	・地元商店街における生産物の販売(ちのりんショップ)は地域に定着しており、地元保育園との菜園交流も継続して実施している。
(2) 地域や地元産業と「顔の見える連携」を推進し、生徒が自主的に活動できる機会をもつことで、生徒の満足度や達成感、自己有用感が高まるなど教育的効果を期待する。	・地域の方との交流をとおしてコミュニケーション能力の育成や自己有用感の向上につながっている。 ・新型コロナウイルス感染防止のため、計画の見直しや中止となる事業がある中、棚田の補修、格子の製作、藍染めのれんの製作などは継続して実施することができた。関わった生徒は満足感ややりがいを感じており、自己肯定感の向上につながっている。
(3) 本校の教育資源と地域の教育資源を活用することで、学校と地域の活性化を図るとともに、学校の特色化・魅力化を推進する。生徒や教職員の専門的知識や技術力を、可能な限り地域に発信できるよう連携を密にする。	・地域連携をとおして、地域の方の本校への理解を深める機会となっている。また、地域連携を基盤とした学校の特色化や魅力化の推進、地域への発進について、生徒や教職員の意識の高揚が見られた。
<数値目標>	<数値結果>
(1) 地域連携活動後に地域への評価アンケートを実施し、90%以上の肯定的評価をめざす。 (令和3年度実績 98%) (令和2年度実績 93%) (令和元年度実績 100%)	・地域への評価アンケートでは、地域と連携した取組に対して肯定的評価が令和4年度は100%

3 実施事業

【独自事業】

[ふるさと創造科]

(1) 地元商店街における生産物の販売

《事業の実施状況》

ア 実施日

5月14日(土)、6月18日(土)、7月16日(土)、9月17日(土)、10月15日(土)、
11月12日(土)、12月17日(土)、1月21日(土)

※新型コロナウイルス感染防止対応のため、9月研修旅行での出張ちのりんショップは開催できず。

イ 参加人数

ふるさと創造科3年生11名、ふるさと創造科2年生16名、ふるさと創造科1年生4名

ウ 実施内容

ちのりんショップでの販売、POSシステムの活用、ちのりんカフェの実施、藍染め・木工品・美術作品等生徒作品の展示

(2) 智頭農林ブランド食品加工品の開発

《事業の実施状況》

ア 実施日

ふるさと創造科3年生の「地域特産品研究」、「課題研究」、「総合実習」で実施

イ 参加人数

農業学科 ふるさと創造科3年生 地域活動コース 7名

ウ 実施内容

- ・ルバーブの栽培とジャムの製造、トマトピューレ及びピザソースの製造
- ・ハックルベリーの栽培とジャムの製造、サツマイモの製菓利用
- ・「智頭農林ブランド食品加工品」として製造した製品を「ちのりんショップ」で販売

(3) 地域における園芸福祉交流活動の実践

《事業の実施状況》

ア 実施日

保育園：4月19日(火)、26日(火)

5月10日(火)、17日(火)、24日(火)

6月 7日(火)、14日(火)、11日(金)、18日(金)

7月 5日(火)

9月 6日(火)、13日(火)、20日(火)

心和苑：5月27日(金)、6月21日(火)、9月8日(木)、10月20日(木)

12月8日(木)

イ 参加人数

ふるさと創造科地域福祉コース 2年生5名、3年生4名

ウ 実施内容

保育園での菜園活動交流、高齢者施設の花壇装飾、校内の園芸福祉花壇の製作と管理

※保育園での菜園活動交流は実施することができた。しかし、新型コロナウイルス感染防止対策のため、高齢者施設での花壇装飾活動は実施できたものの、高齢者との交流はできなかった。

(4) 地元休耕田の有効活用策の研究

《事業の実施状況》

ア 実施日

5月から12月の期間においてダイズ栽培と利用法に関する研究を実施

イ 参加人数

ふるさと創造科3年生 地域活動コース 園芸部門 4名

ふるさと創造科2年生 地域活動コース 園芸部門 5名

ウ 実施内容

ダイズの省力多収栽培法の研究、畦畔防草シバの防草効果研究、ダイズの利用法研究

[森林科学科]

(1) 棚田保全事業

《事業の実施状況》

ア 実施日

保全活動(除草など):令和4年5月から11月の期間

石積実習(社会人講師授業):令和4年9月9日(金)

イ 参加人数

森林科学科 森林応用コース生徒2年生 6名

森林科学科 森林応用コース生徒3年生 4名

ウ 実施内容

保全活動 : 除草実習

景観向上活動及び石積技術の習得 : 講師 株式会社阜月屋 大谷 訓大 氏

[生活環境科]

(1) 地元産業藍染めを学ぶ

《事業の実施状況》

ア 実施日

総合実習年間

イ 参加人数

生活環境科生活デザインコース3年生 5名

生活環境科生活デザインコース2年生 3名

生活環境科1年生 2名

ウ 実施内容

沖代の圃場における、藍染用すくも作り

生葉(藍)ジュース染めへの取組

藍染に関する基礎力の育成、製作品の種類と技法の多様化への取組

「すくも藍染液」を用いた藍染め及び、染めた布や糸を使った作品製作

(2) 智頭病院等の室内装飾

《事業の実施状況》

ア 実施日

智頭駅の装飾 1月30日(月)、2月15日(水)、2月20日(月)

智頭病院の装飾 10月13日(木)、11月17日(木)、11月18日(金)

12月17日(金)、12月26日(月)、1月23日(月)

イ 参加人数

生活環境科3年生2名、2年生3名

ウ 実施内容

智頭駅の装飾：駅待合室一角にインドアガーデンを設置

智頭病院の装飾：智頭病院のロビーの一角にプランター等を活用して、インドアガーデンを年間3～4回実施

【智頭町への提案事業 ～智頭町百人委員会～】

[森林科学科、生活環境科]

地域連携・貢献事業 智頭宿魅力アッププロジェクト

《事業のねらい》

智頭の町並みの景観保存を目的として、かつての景観をより魅力的にするための活動である。令和4年度で9年目を迎える。技術の習得、継承を目的としながら地域の方々との交流を行うことで、全人的な成長を図る。

《事業の実施内容》

格子の製作：森林科学科木材加工コース2年生が、令和4年7月から令和5年1月にかけて、藤縄建具店の藤縄 薫氏の指導のもとに格子を制作し、依頼者の家に格子を設置した。また、完成後は依頼者と地域住民への「お披露目会」を実施して学習の成果を披露した。

藍染のれんの製作：格子と同様に事業を実施した。依頼者及び地域の専門家を交え、デザインについての検討、製作を行った。完成後、依頼者に「お披露目会」と「引き渡し式」を行った。

4 総合所見（成果・評価）

地域と連携した活動を、積極的に授業等に取り入れており、目的意識を持って「地域連携」に取り組むことができている。「地域連携」の担当教員は、地域からの要望を取り入れた活動を企画したり、地域で行われるイベント等への参加において窓口となるなど、活動を行う上で重要な役割を担っている。

「地域連携」に重点をおいた内容では、地域の多くの事業所や教育機関との連携により、学校での授業や実習では体験できない専門的で幅広い知識と技術を学ぶことができた。また、各活動をとおして山間地域の現状や課題を認識するとともに、地域の活性化や技術の伝承、また、地域連携を継続していくことの必要性を感じている。

※枚数任意